

日本骨髄バンクの現状（2001年2月末）詳細は別添一覧を参照下さい。

	前月	当月	現在数	累計数
ドナー登録者数	1,244	1,184	134,564	160,828
患者登録者数	146	121	1,627	10,397
骨髄移植例数	40	65	-	3,148

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。

① ドナー登録数は、依然として低迷傾向。抜本的な取組みが必要に！

(1)各地で「献血会場におけるドナー登録受付」が始まりました。1月は、献血会場におけるドナー登録受付が27回実施され、297人が登録されました。1月の31回のドナー登録会のうち、回数で87%、登録者数で77%を占める実績を示しています。献血会での骨髄ドナー登録受付は、各地で開催されるドナー登録会の主流となりつつあることを示すものと理解できます。1月の都道府県別開催数は、沖縄県9回、秋田県3回、東京都3回、福岡県3回、栃木県2回、神奈川県2回、愛知県2回、北海道1回、石川県1回、広島県1回という実績でした。これは、日本赤十字社ならびに各地血液センターのご協力の賜物です。今後ますます、各地での献血会におけるドナー登録受付がすすむことが期待されます。(2)「都道府県庁舎、市庁舎でのドナー登録会」続々と開催。1月には31回のドナー登録会が開催され、384人の登録実績でした、1月の全ドナー登録者1184人に対する割合では32%を占めています。昨年1月は登録会5回、登録者数61人でしたので、昨年比6倍という大幅増加です。とりわけ、各都道府県・市役所での庁舎登録会は、7都県（東京都、秋田県、栃木県、茨城県、神奈川県、愛知県、福岡県）と、4市・町（福山市、沖縄市、糸満市、北谷町）で計18回（開催日数ごとに計算）開催され、合計239人が登録されました。ドナー登録者増加が低迷傾向を続けているなか、各都道府県・市担当者のご理解ご協力により、このような成果に結びついたものと厚くお礼申しあげます。2月、3月にかけても、庁舎ドナー登録会開催の問合せが、各県・市から寄せられています。東京23特別区でも献血並行登録会が始まります。すでに港区、大田区、渋谷区での開催が決定しており、世田谷区、葛飾区においても実施時期が検討されています。各地の行政担当者の方々のご協力により、今後ますます庁舎におけるドナー登録会が開催できますよう心から期待しております。(3)トピックス 愛知県「あいかちゃんのイチゴ登録会」を開催。地元マスコミも注目。3月18日（日）と春分の日で祝日にあたる3月20日に、愛知県の新城保健所と豊川保健所で東三河地区ではじめて「休日の集団登録会」が開催されます。この登録会は、一人の患者さんの思いを地域全体で受け止めようとして企画されました。愛知県宝飯郡一宮町でイチゴ栽培農家を営んでいる加藤徳男さん（29歳）は、1998年6月に慢性骨髄性白血病と診断され、骨髄バンクに患者登録。ドナーが見つかるのを待つかたわら、骨髄バンクのボランティア活動に積極的に取り組んでおられます。昨年11月に生まれたあいかちゃんが、毎年お父さんの育てたイチゴを食べ、元気に成長するよう、そんな思いを込め「あいかちゃんのイチゴ登録会」と命名されました。あいかちゃんのお父さんを応援し、患者さんへの移植チャンスを増やそうとの企画です。問合せ、予約は、3月18日分受付は新城保健所（電話05362-2-2203）、20日分受付は豊川保健所（電話0533-86-3188）まで。

② ライオンズクラブ主催シンポジウムが横浜と山梨で開催されます

3月13日(火)横浜市医師会館、3月14日(水)甲府アピオにおいて、骨髄バンクシンポジウムが開催されます。主催は神奈川県と山梨県を管轄地区としているライオンズクラブ国際協会330-B地区。横浜地区、甲府地区のライオンズクラブ会員約400人の参加が予定されています。専門医による骨髄移植の話に加え、骨髄移植を受けた元気になられた元患者さん、実際にドナーとして骨髄提供された方々などによるディスカッションも行われます。ドナー登録30万人に向けて、ライオンズクラブとの連携方法をとともに考える場であり、今後の具体的なドナー登録会開催企画などについても話し合われます。ライオンズクラブの皆さまにとって、骨髄バンクをもっと身近なものを受け止めていただける機会となりますようお願いしています。

③ 「第4回公開フォーラム」開催。何をどう実現するかで、白熱した論議！

骨髄バンクを応援する若手国会議員の会、NPO全国骨髄バンク推進連絡協議会、当財団の主催による「骨髄バンク第4回公開フォーラム」が、2月11日(日)9:30~17:00、東京西新宿の全労済東京会館で開催されました。テーマは第1部「ドナー登録者、3年で30万人を実現するために」、第2部「ドナーの安全強化、安全な採取体制を実現するために」、第3部「患者さんの救命のチャンスを広げるために」。特別セミナーとして「同種末梢血幹細胞移植」が取り上げられました。3連休の中日にもかかわらず、全国各地より100名以上の方々が参加され、それぞれの立場から活発な意見交換が行われました。

④ 厚生労働省研究班「公開シンポジウム」が開催されました

厚生科学研究ヒトゲノム・再生医療等研究事業「造血細胞の自己修復能力、再生能力を利用した治療法の開発と普及に関する研究」班と「臍帯血を用いた移植・再生医療に関する研究」班の合同シンポジウムが、2月10日(土)14:00~17:00、東京医科大学第一研究教育棟第二講堂で開催されました。臍帯血移植の進展状況と移植成績、同種末梢血幹細胞移植が、昨年4月の医療保険適用により急激に増えている状況、HLA-DNA検査の普及について、大量検体の同時処理の目処がたったことやフィルターでの検体検査も可能との報告、膠原病などの自己免疫疾患への造血細胞移植の進展状況——、最新の研究成果に約150人の参加者が耳を傾けました。

5 「骨髄バンクドナー登録説明員」養成研修制度ができます

骨髄バンクドナー登録会で受付、説明、確認業務を行う説明員を育成するための制度が、4月1日より「説明員研修プログラム」として本格的に施行されます。これにより、説明員の拡充と登録会開催の一層の促進を図られることとなります。研修会では、骨髄移植と骨髄バンクの基礎知識、説明員に求められる業務内容、心得を学び、実際の登録会にて実地研修を行います。所定の研修を受け、登録会での実地研修2回以上を修了し、指定推薦人よりの推薦を受けた方には、説明員認定証を発行します。骨髄バンクのサポーターとして支援していただける方ならどなたでも参加できます。

6 地区普及広報委員を公募中！ふるってのご応募をお待ちしています

前号でお知らせした地区普及広報委員募集について、その必要性を説明させていただきます。昨年6月、厚生省の通達改正により、当財団だけでなく都道府県、政令市及び特別区も集団登録会を開催できるようになりました。ところが、各地でドナー登録会を開催企画し、行政、血液センター等との折衝、当日運営を実際に行う地区普及広報委員が不足しています。現在、地区普及広報委員は33人ですが、地区普及広報委員がいない道県もあり、ドナー登録会の開催が難しい地域も多いのが実態です。また、人口が集中している首都圏、京阪神圏、中京圏では、登録会開催要請に対応できないこともあります。人口密度、面積を考慮すると、全国で最低100人程度の地区普及広報委員が必要な状況です。ドナー登録者30万人を目指す取組みの基礎ともなる、地区普及広報委員に多くの皆様の積極的なご応募をお待ちしています。お問合せは、財団事務局までお願いします。

国際協力事業の状況()、HLA照合サービス状況期間

日本 米国	
米国 日本	
日本 台湾	
台湾 日本	
日本 韓国	
韓国 日本	
その他の国 日本	

* 4半期ごとに掲載です。

お知らせ

当財団への問合せが激減しています。各団体や企業、サークル等の機関紙にドナー登録問合せ電話「財団フリーダイヤル0120-445-445」の掲載をお願いします。マスコミ取材の際にも掲載依頼をお願いします。